

南三陸 復興まちづくり通信

第38号（平成29年8月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。読者の皆様からの情報、ご意見、ご提案を頂戴できれば幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



ビーチに歓声戻る！ 「サンオーレそではま」7年ぶり再開

東日本大震災で被災した南三陸町志津川袖浜地区の人工海水浴場「サンオーレそではま」が7月15日、7年ぶりに再開されました。サンオーレそではまは、波の穏やかな人工のビーチで、夏は大勢の海水浴客で賑わっていましたが、震災の津波で被災。砂の流出や地盤沈下で遊泳禁止となりました。復旧工事は、昨年5月から開始。約15億円をか

けて、砂浜や階段護岸、荒島パーク、防波堤などを修復しました。砂は登米市などの山砂をダンプ約6,000台分使用して、震災前の白砂のビーチを再現しました。夏の観光スポットの復活で、浜に子供たちの歓声が響き、その賑わいが3月に開業した「南三陸志津川さんさん商店街」などの賑わいにもつながっていくことが期待されます。

バスでぐるっとまちめぐり

復興みなさん会が主催する「バスでぐるっとまちめぐりツアー」が7月3日に開催され、志津川東復興住宅の入居者19人が参加しました。一行は、みなさん会のメンバーの案内で、志津川、戸倉、歌津地区の復興公営住宅や防集団地を視察したほか、戸倉に完成した環境省のビジターセンターや伊里前の新商店街「ハマレ歌津」、移転新築された歌津総合支所などを見学しました。昼食時には、入谷のひころの里に移動して「ばっかり茶家」で会食をしながら楽しく交流しました。



（「ばっかり茶家」での昼食の様子）

入居者集い 広がる笑顔 ～志津川東復興住宅で落語の演芸会～

志津川東復興公営住宅第1集会所で7月13日、落語家を招いた演芸会があり、入居者25人がプロの話芸を楽しみました。震災後に被災地でボランティア公演を続けている東北笑生会が主催し、落語家の露の新治師匠が上方落語の演目「ちりとてちん」を語りました。落語を手が届きそうなくらい真近で聞くのは初めてという聴衆を前に、感情豊かな表現や滑稽な所作で熱演。入居者を爆笑の渦に巻き込みました。



(上方落語の「ちりとてちん」を熱演する露の新治師匠)



(お茶会後に笑顔で記念撮影＝みねはた団地集会所)

山形の和尚さんが 団地住民と笑顔の交流

山形県のボランティア団体が7月21日、歌津伊里前地区の高台移転「みねはた団地」を訪問。集会所で入居者と交流会を催しました。訪れたのは曹洞宗山形県第三宗務所ボランティア協議会のメンバー5人。同協議会では震災直後の3月から平成の森や歌津中学校の避難所で物資を提供したほか、仮設住宅に入居後も毎月「行茶会」を行うなど、支援を継続されています。この日は、集会所の完成を機に、同団地で住宅を再建した住民と旧交を温め、持参した山形名物の漬物や果物、菓子などで、語らいのひと時を過ごしました。

集会所で七夕飾いづくりに挑戦！

～志津川中央復興住宅で住民の交流会～

志津川中央復興公営住宅の集会所で7月27日、住民の交流を促すイベント「七夕飾りを作りましたよ！」が開催されました。ドコモショップ古川中央店と復興みなさん会が共催したもので、入居者19人が参加しました。ドコモショップの角田健治さんやみなさん会のメンバーのアドバイスを受けながら、青竹に折鶴や和紙を貼った吹き流しを付けたり、願い事を書いた短冊を結んだりして見事な七夕飾りを完成させました。完成後は、みんなでお茶会をして親睦を深めました。



(完成した七夕飾りをバックに記念撮影する参加者)

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当会は今年度、トヨタ財団と大阪コミュニティ財団から助成をいただいで活動しています。